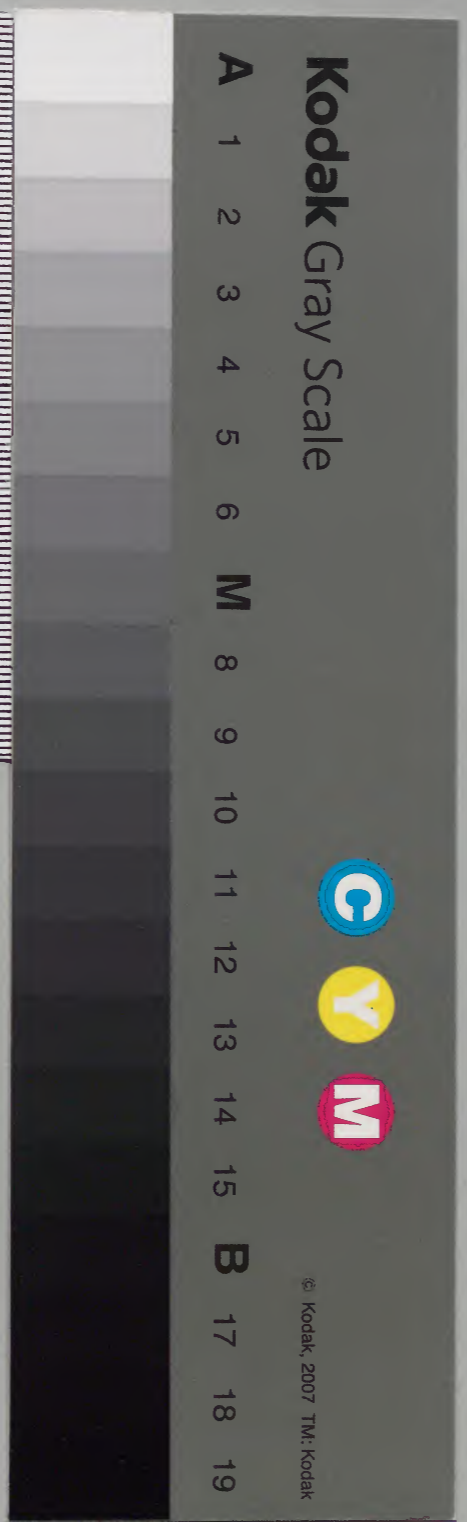


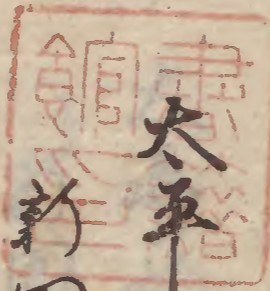
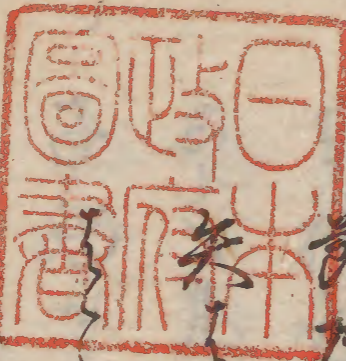
和書門

和書門			
冊	架	函	號
四〇	七八	四	一〇〇

內閣文庫	
冊	架
四〇	七八
七	四
函	號

內閣文庫	
番號	和 20464
冊數	40(14)
函號	167 62





太平記卷第十目録

新田別稱確執奏狀之事

幕下使下向之事

幕下使下向之事

幕下使下向之事

幕下使下向之事

幕下使下向之事

幕下使下向之事

幕下使下向之事

幕下使下向之事

町田久成獻納之章

淺草文庫

修

均車入海乃事付親光うらたの事
坂本以宣者并以彰言の事

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

太平記卷第十

新田定種權執養懐の事

子種より人きくすのりし宣旨とて下されし

小をりて新田源義均車とぞいさるる東八ヶ国に

後頼乃素下と物許ありし事一なまはるとて今更

しと孫お播河ゆと合戦の時忠あり嘗て東更と

とてありりうたてと新田の一族を頼成あり

東國の所従とてと忠と頼成よりて語人とぞ

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

黒の^シもい^シの^シう^シられは南家の用よせん^シと
の^シ終^シの^シ多^シくと野村^シ後^シ方^シの人^シあ^シ連^シと^シや^シく^シは^シ終^シと
し^シひ^シま^シら^シよ^シ義^シ負^シけ^シる^シこ^シお^シさ^シけ^シり^シあ^シら^シは^シあ^シ家^シに
權^シ執^シ合^シ戦^シよ^シ及^シま^シん^シと^シし^シを^シら^シ城^シ上^シや^シと^シ忍^シも^シあ^シり
と^シり^シく^シし^シり^シか^シや^シう^シの^シ事^シ一^シを^シら^シう^シく^シあ^シり^シし
う^シし^シも^シこ^シして^シ今^シ新^シ田^シ野^シ村^シ一^シ家^シの^シよ^シ一^シ見^シ張^シ忍^シま^シ
申^シん^シあ^シう^シ乃^シ思^シひ^シと^シう^シ一^シを^シら^シう^シひ^シふ^シわ^シら^シが^シう^シん^シと
さ^シし^シ張^シう^シく^シの^シら^シう^シ一^シあ^シら^シう^シま^シて^シも^シや^シら^シ下^シ比^シ乳^シ
と^シら^シう^シふ^シけ^シら^シ一^シと^シ張^シま^シう^シ一^シひ^シき^シあ^シ連^シよ^シよ^シて^シ張^シは^シ
ひ^シく^シう^シよ^シま^シて^シ張^シま^シる^シ一^シお^シか^シら^シう^シ申^シ小^シ

今^シお^シま^シる^シ心^シ相^シ撥^シ治^シう^シ時^シ行^シう^シ治^シと^シう^シけ^シ終^シく^シ圖^シ
来^シ張^シあ^シら^シけ^シし^シは^シ今^シ張^シ張^シの^シ企^シあ^シら^シ申^シ張^シよ^シ連^シ
し^シま^シら^シて^シ直^シ上^シけ^シさ^シ申^シん^シと^シう^シ一^シを^シら^シう^シひ^シを^シ忍^シ切^シく^シ
と^シい^シな^シり^シた^シ不^シ義^シと^シ申^シう^シの^シ一^シと^シ連^シは^シあ^シら^シう^シ一^シと^シ乗^シ勿^シ
編^シり^シ村^シ遊^シ代^シの^シ置^シ有^シと^シう^シ一^シと^シう^シ一^シと^シ申^シり^シま^シ
と^シ張^シり^シあ^シり^シま^シら^シと^シ張^シ心^シせ^シん^シと^シう^シ一^シを^シら^シう^シひ^シが^シ不^シ義^シ
敷^シ字^シ小^シ連^シす^シと^シ申^シも^シり^シう^シ一^シと^シ張^シと^シあ^シら^シは^シ罷^シに^シ
う^シら^シり^シ一^シと^シう^シ一^シと^シ切^シの^シ張^シあ^シら^シ城^シ上^シを^シら^シあ^シり^シ
う^シ一^シハ^シ仁^シ政^シよ^シあ^シら^シま^シと^シ親^シ張^シ不^シ知^シあ^シら^シり^シ小^シう^シん^シ
ま^シん^シ張^シ上^シら^シれ^シう^シ一^シと^シ張^シ張^シと^シあ^シら^シは^シ張^シ張^シ上^シ人^シ

と猶愈へらぶし事なり事一の扱と為さしむるさ
とまりよきり直振上人勅とうけ給て關東へ下
らんとして活ひきりて目言氏心細川河波吉和氏
と使ぬく一紙の奏牒とうけられりて牒上曰
冬議後三位直中納言藤原氏滋茂滋茂傳云
とやく義貞の長子一親と誅罰をくす下の泰
平と給らん事一とらふ状
右豫之性代孫の空海は酒より成らんふる
と貴者そんごう一のりき難るを鬼小あらす
とりみりする一あそむたひねまは別日わりの小

さうくそんごうかといふも所ぬふちりまると
とぬよ赤子の所くまじふらうぐのうらぐとら
所なり去え弘の初とらん乃成は慈小逆感と
振て三きりよてうきんとますすりそのうら
らんらまきふおらりて國家屋とままはとぬを
言氏ふせりの才成りて同志はけらさいとさうま
殊く是より死と一途小定る士才とさうらふ海よ
とらんさう一強めつし孫とあ得ふトとらん代
議とらんさうの誠あり所ぬふさうひきと振て
一我と殺すの日らんまんと着んりくの申小ゆく

うりうりの生むお小諸高肉よもりもやうらん哉
ふらぶる留まのうさるんや大逆比もひあま
より甚るるうりる一兆おま龍とらふも武
の全そまあうお也きん里ん子く勅許と下され
な逆教と殊伐あく海さ小海内れあ教と殺らん
と寸こむいんのお小うんも昔氏滅煌滅忌憚言
建武二年十月日
とぞ明くまありきんは養心未肉境あえ下され
さりきれてあまの子くあう人えるさあ小義貞の
たもとほく入うて同養心とそ上きんを初小曰

後位上初在共勝れ之通播与源初良義貞滅
煌滅忌憚云

とくやく逆は教氏並義永と殊伐一して天下と
三月めんとこうふ
右豫く蒙すうり高今聖皇の天地ふけいぬら
素一徳右今小老り紀三ふ小抄初あうり
わううんとうじう一聖文うちうと定ひりゆへ
也言よ源家末流のらんでいさ成並義とりり
のりあ本のうりうりま月とまらと并よ善業れさ
と少びそ切とまら取とさくようあまうり滅初

小付と六もつ減せむらりい同月七日也
お去更八百余里置一日乃中より伝云
やぬり小義貞系海部軍兵よる事
あふ軍ありあふんや鬼一さ
は百余騎乃勝と率ふく
六月三日也
小函黨とわら月と率一
義詮三歳よりちの
上つ減りすめらの
の乗うんてい
の一万里の
い何

そのふよあんを鬼二件
ぼる成りしりし物件と
と寄り親王乃率
をこあふりし
觀夷し
の圓竹園
らふふらり
定澄より
のがあ
しせうらり

ヶ國の管領と尸の海りりて以姓のちよくさへ
と叙用せられたるに依りて申んたぐはし氏と
害して利歎とまると毒物といせいの逆行小乞
よりえ甚なるを罷又天運着んをんあぐり
今んせぬと云する一とせぬ一とて小
政し大化若素小治く入るまハ備小共約心親王
乃智潔よりおつり然と勢本種くの後張り申人
所ぬ小治刑よ申く一申り果ねん志ん國と亂
すりうけきまきり乞とかくま治るんを罷六親
互利とありあふまおつりとおさ人正小治せん

とと人のと右武了とうさう小けみ川蓋は揚水
のうどや海りよさる氏うと備一を宿意と云議れ
かよりりてき祈とまのこの申小く一めさる
人面歎心乃積意乞ともあふくまきまをり熱
へ切らさるんやを罷七並義約はお控治り時竹
か軍務小おひやうさまてくくり民をく編念
成ありぞくの時ひそりよは使をと所りて共
尸に親王と誅しなると意備り國家成りふ
事んとするのそりよありは事一ゆられく未叙
字よまきせぬとととも世のあふ不備果物そりく

きん六送^{キョウ}乃^ノの甚^シき子^コ未^イ未^ラ比^ヒ教^{ケウ}成^{テイ}さう^ウす
ま^マ冠^{クワン}八^{ハチ}八^{ハチ}送^{ソウ}ハ^ハきん^{キン}ん^ンを^ヲあ^ハら^ハう^クと^シま^カさ^シう^ク
せ^セ所^{ショ}く^ク刑^{ケイ}を^ヲま^テ用^{ヨウ}せ^イい^マさ^スこ^ト
だ^ダく^ク八^{ハチ}極^{キョク}二^ニう^ウび^ビし^シあ^ハら^ハう^クと^シま^カさ^シう^ク
あ^アら^ラる^ルる^ル一^{イチ}指^シ義^ギ貞^{テイ}一^{イチ}さ^サひ^ヒ大^{ダイ}軍^{クン}を^ヲあ^ハけ^ケ百^{ヒャク}戦^{セン}抗^{コウ}装^{ソウ}
を^ヲあ^ハら^ハう^ク万^{マン}卒^{ソツ}死^シて^シり^リ見^ミ及^キ志^シを^ヲ送^{ソウ}流^{リウ}成^{テイ}刑^{ケイ}を^ヲ
乃^ノ下^カま^マり^リぞ^ゾけ^ケ窮^{キウ}極^{キョク}と^シ尺^{シツ}寸^{ソウ}の^ノ牢^{ロウ}に^ニめ^メら^ラれ^ルと^シま^カさ^シう^ク
氏^シさ^サび^ビに^ニ付^ツて^テき^キん^ンん^ン成^{テイ}こ^コの^ノ原^{ゲン}地^ヂ成^{テイ}ひ^ヒさ^サて^テ終^{シュウ}
焉^ンと^トあ^アら^ラす^スと^ト大^{ダイ}切^{キツ}の^ノ所^{ショ}に^ニあ^アら^ラす^ス編^{ヘン}言^{ゴン}以^イ宣^{セン}
と^トま^マら^ラ不^フ也^ヤと^ト言^{ゴン}成^{テイ}や^ヤう^ウや^ヤく^ク大^{ダイ}賊^{サイ}と^トう^ウん^ンり^リん^ンと^トる

小^コ義^ギ士^シの^ノ小^コあ^アら^ラす^ス事^ジ成^{テイ}う^ウま^マへ^ヘて^テ義^ギ貞^{テイ}と^ト殊^{シュ}せ^セん
と^トう^ウふ^フ組^{クミ}の^ノ小^コ義^ギ貞^{テイ}忠^{チュウ}心^{シン}と^トし^シて^テあ^アけ^ケ正^{テイ}義^ギと^トし^シて^テ
あ^アら^ラる^ルの^ノ小^コ命^{メイ}成^{テイ}極^{キョク}し^シこ^コう^ウに^ニあ^アら^ラす^ス
て^テさ^サ氏^シと^ト野^ノ野^ノと^ト奏^{ソウ}す^ス國^{クニ}家^カの^ノ用^{ヨウ}控^{コウ}理^リ世^セあ^アら^ラす^ス
改^{カイ}と^トり^リ門^{カド}を^ヲあ^アら^ラす^スふ^フら^ラく^クハ^ハき^キん^ンん^ンの^ノ小^コ甲^{カウ}正^{テイ}
と^トう^ウし^シん^ンん^ンの^ノと^ト記^キし^シ加^カへ^ヘて^テさ^サ
氏^シ並^{テイ}義^ギの^ノ下^カに^ニ送^{ソウ}流^{リウ}成^{テイ}刑^{ケイ}を^ヲあ^ハら^ラす^ス一^{イチ}び^ビる^ルさ^サの^ノ由^ユ宣^{セン}
首^{コウ}と^ト下^カし^シて^テあ^アら^ラす^ス忽^{コト}小^コ浮^フ雲^{ウン}の^ノよ^ヨう^ウに^ニあ^アら^ラす^ス
ひ^ヒて^テあ^アら^ラす^スよ^ヨ白^{ハク}日^{ニツ}の^ノ余^ヨ光^{クワウ}の^ノや^ヤう^ウん^ンと^トす^ス義^ギ貞^{テイ}成^{テイ}
將^{ショウ}誠^{テイ}忠^{チュウ}信^{シン}云^{ゴン}

建武二年十一月日

とそく連つり高の別法に糸羅しとびりり
ろくまんとせんごありきれた大はる羅と書とく
口成ら小はる中とありて言とおさ所り
小門率お法志とく免取くすれきんハ今
方ハ書とひとそつとく一被れ道程と
正ん小養負の何りり一被れ書ハ八送一
小を罷りろくふのくど純中兵一親王御さん
せりしなる由とめて上守と連とび一りり
書宛るは書成並養小罷のせめのがまきり

タミケシ

但行云とそてう門く入成ととひりり
小中くせいとたやびとすあくと東院の書
とゆくと本が罷料と定めらるるさくとすれ
きれた法心法は成と同とてと目ハ織定ハ
をりりとくりりく大塔云の所くハ
よ付まのくせ結し南の所方とす女房極念り
ゆり上て事ハの極とありの中く小養一り
結ひまらとそてろ書成並裁の及送子御なり
たりとて教書とよおるやとすそ成とそ不
織の事と思右取小又ハ困西園より足利

あさるく軍務さへそくゆ所書とて教十通を
送すも小つと法心りうてやんさるては上い
うふふあふあふ守忠小河正と下さるるゆりて
一文^{ナカ}勢心親王と東園の所^色後頼小なり新
田左兵衛のうと養貞と大均軍と定めく園に比
大名たどそそ人られまう元弘乃共親のぼる下
一とり小海まくと万民^シ新事とるこかといはる
法いえ程おりては浦りうこわんと比思ひ成さ
さ所く痛まばまおきて徳園の軍務たさふそく
小あさるく人ここいりまう世中そわくそわくま

あつゆえなりんきり

若方使下向る事

う里考る程は十一月八日新田左兵衛のうと義
貞の所款進路の直向と下し終く共成石具し
来内^イせらるるまのく色滅はさそえやり小海あり
くおくれり内^シ海^カ八^カ省^カ階^カ下^カ小^カ河^カと
海^カ中^カ儀^カ乃^カ若^カ舎^カとこかひまて若方と下さる治^カ取^カ
臣^カ奉^カ小^カ指^カ亮^カ三^カ佐^カ中^カ乃^カ惟^カ盛^カ成^カ約^カ進^カ路^カの^カ為^カ小^カ下
されし時すくは結きりしる不若比例るまはと
て今方ハ天^カ等^カ取^カ平^カの^カま^カい^カと^カそ^カを^カも^カま^カき^カる^カ義^カ貞

若くは或は二乗河原へ打出さるる先き其心の宿願
二乗高倉へ船田入るると招ひけて時の勢と三夜
のけさせしむる三矢村をせて中田の極とさり
おろす是れい船瀬三年渡り當正盛の義親直討の
うめよお羽田へ下し村乃倒也とぞ申すし其後
一文半勢に親王二百金賜りて三乗河原へ打出
させ給ひしうら内裡より下されうらめさの
はもごとく上りの小旗小風をけしめしめきて
倉極まで打く付あり月日乃西りんされて地小
おちよりきりしそ不便養るまきと思ふ者あり

あさましやしおのほ合戦はもろくしりし
とりと思ひわ者ハなりきり去程小同月比半
割よ大ね新田丸若湯村義貞初と立給ふ元弘の
始よび人さうしそ乃大款とわらりて忠切人よ
うらりありもさ其心悉よまされし給よもそ
ゆ志やうさまてもるうりあり陰徳所お小ありハ
ましく今下下武將ふそありり給ひをれて南家
え他家えをりあてつんしゆの心誠失所く付
あさこのしすとりふ若おなりたり是南家比一
撰よ片金身服屋右藤門作義助式了大史義治坊

乃關世定河東小三入きり東山道の瑞の瑞の瑞
まは六均小三日引うりて初と立きりそ大わ
まは先大智院の支源正親文洞院左邊門のうき
実世持明院右邊城之入道乃在園中均をくあり
二条中均為冬均大均まは江田院理亮右義大給
乃東大支氏義徳儀上總入乃同院はあ司あひこ
石若獅子落合仁科伊本津志中村村上うき川
まうあし志院ま切へ十帝孫徳儀外助重気ホと
ひのとの均とてを瑞初合又子余孫墨田代省
より東山乃武経之伝法圓へ入けまは南西の西

司堀川中納言二子余孫まてま加家そ瑞成合
て一万余騎大井比城強せめおとて同州小福
倉へまやんと大子乃あひ川とそ瑞うりきり初
子乃大勝正が小東院うらねと如まううへつけ
そん人あがきれし左馬頭並義仁本御川宮上校
乃人二均車比市前へ系くまてま一隊とて
あけりままん為小義貞武大均ゆく東海東山比
西道よりせめ下はるう款小部不武越られるも
階うめふたうひ者うし急矢を記さるた山の意
まはせ向く水う人作人うしとまをまはる

氏心りく移んとしてあうとハ物之のへ漏り
高き我嘗代ら矢代家小生まは月小源氏此
と流すくソノ流久以来お控さるこめいよはく
家とけり一名城もつ一あうと見減つとよりし
減今なだくとり織成つきて極夷の軍乃重みと
達し後上三品とさるとび気はかびよりよよんと
之た置悉のうう中ん小姓もや忠とりのいたさ
是とすあうする一人一人のせはるあるり
折今悉のけき里んあうあハ共アハ親王と
るひまわりつうと法幽へ軍指さるそくは所あ書

城下しとるとりふぬ糸の所中かぬ也一之書
成りあぬとあうすば糸の豫くるり乃子細成
し早さく虚名はぬふさうしてけさ置んるとう
さう流のんあハとも角之乃を正とさうらひ
終へ家小をひくと者悉小向ひ書せら減ひさ矢
城もあ月ま多人かう及うて之程飛科のがあ
あうくハていさうのせんえのううらぬえぬと悉
のあうあハ不思と存せさうあうと子孫はるよ流
と人きと城とのぐらひとの流ひもさすうら
の三つうじと列まう因へそ入流ひまうのあう

倉と打きく同母に日冬河は夫とまの富の末の
富とつさすり

夫と紀と紀カテゴ河系と前ひの事

三指小十一月二下日乃卯刻ヨシ小新田左巻湯の

うと義貞殿マキ在湯門作義助六百余騎とて夫と

三川とと一勢敵の所と見渡せはマキ指二三十万

騎とあららんとは是とて川より東橋マキの上下三

十余町小打りとしてうん下のいしくマキ三指マキ

あり左巻湯のうと義貞殿六百在湯射渡よびて

河の川くう後し川もさ敵のうあくとて未達と

の終ひけまは公灘六命在湯兵一騎河此上た渡

おまよりり渡りくもせ物と見ゆマキの河の橋と

見ゆと海り川へさ取い三ヶ取と左向此マキ巻と

して厚風と立ふらりマキくさう小款マキ夫あり渡

渡てさう人いさまはしあこり後てハ甲と款と

利とゆりまんと存い夫とくく河系面下と

ひらへうて款渡あさびらまは定めく河系後て

ぞと重らんすらんをぬおる重りりりて河甲

へ款渡とひてとゆりくく河系面下と

月事と一戦とぬてハ作人さとりをいれん渡

とゆへり大カと云前ミツサキよりすくませ八尺余のりな
ふいもうふてうとての廣くわ月ヒラきとつさるう
へあとひ款ううを思つり。わんへうす款引た
あころりなふへうすけ家カの一切とせ
甲ととらんとせはるとに記まえなくおしせて
う月ヒラむととさうへよ一足と款ゆたさくびと
ありそくふまへかうとに法軍張りさめて下知チ
せうまけの款一万余騎陰イふとらてうとまん
とせれたるこまれと陽ヤふひうきうけういさん
とせれたる人てさうとれとけ入てかうと

よりと云成まげ切とせとそれがさあうより
戦をう回人するを小氣キつうまてたたふらま
ひえうり所小敷大將義貞ノブ判軍義助七子余騎
あううううの波ナミとあえて大浦ウラと海らんりさ
わひのぬきと門カドのよるとあゆませうと記と
まうてとて包けり同款一万余騎をいさわひ
ふゆとさきとあて海より向ひへ列ありそれと防
そとくううとれよせり日ヒ改シと書きまげ合戦ハ
め自由とぞあらんすんと獨念ドク防備海より東
よ陳とぬく病けううりて思ひせんあうとせハ

之ありしは乞と申くを河小云
野村幸おき氏なる野直義以下一類亦或感
不らり野直義種くそら乃同祖疑せらるる也
後幸多しひりんとんのみとらるとりみ大列伐
をゆらとへす味くは在り成爲不日し株戮せ
あびる一戦切あり小とひてい抽責せらるる
者編育めばこそ進を忠とてを怖す
建長二年十一月廿三日 石中毎光当
或田一類中
小笠原一類中

へと同やん三ふう小名字と申へて十余通書てそ
別ありけり左より並義の長乞と指く急達と
与へ来給ひく將軍と對面して海と相と人て此
給ひけりい南島物勤の事一義貞の長が申は
ひりふして別新田成河よ小下されい間試一門
小とひていあといとんせい隆承の者然在り
め爲て株と人と議しはさる敷道の類も又同
のがあし雨はは所り考る是目矢も此子誠は合
戦ふえつれていし諒りもこれありふ入えいし
編育た乞直義以下一類小い人考とて乞の

まぬ一家の勅勅して久しお家の養と思ふ也
ふれて三ぞくの陸院リクテンと申たも休作人下と申
ふれままは均軍は備首と申遣ふと備言と成世
之勢治り次第減さてハ一門のふらんは時亦之作
ケつううし力申す成之勢カシクと成まら矢此養と
モツラ
馬山して養負と死と成小と人しとて息ふ乃報
とぬき給ひくぬきさつひうれとぞめされけり
ままはを以備會甲の軍務と成が一束シたりとて
うとと申す申く志を分ハ均軍のうととまさら
うとんが為也たりとてこそ事一うなりとて

東方へ移来びんと志きん大名左も右姓ウラナ左姓小
落ゆうんと志きん軍務之儀心氣と並ナシと成と成
来きま月一日と過けり小均軍の備首と三す可
勝なりなり小たり
箱柙コッホけり乃下合戦の事
今箱小同下二月十一日西洲の西にけりて左も
以並義勢柙ナシとさう均軍ハ竹下ハひふと
定られ小たりは岡成乃合戦小打まけあり共
左もうと氣を更成さてけりと成昨日今日と成
竹岡なりと成務大ねと成てゆと志きん男款スナ改

小停豆の府を打立と今朝野七里山七里と城子
と守りあうは野村尾池大なる國高津金式口大
支三浦固樓の土波源正お満頼を令申らうきん
坊く本依海判者赤松雅承助貞別加振小月らう
へあく極念と集活ていりあふま一人のりあ
らうと角もあきりさや足竹下へとせ向くは
原の勢の所々ねえ記小説よせし一合戦あく討
死せんとて十一日まゝの書ふけの下へとせ向
ま路島らりうけは國とさうしくぞ思ひこり
あうさまとも養とちうる勇士とえなまは護多か

よふらへうすうて竹下へ打あうりく款は討
と遠く見おろしうまむあハ倭豆の府赤ハ野七
里山七里と燒あふらうりり火の扱わく子百た
あうさりきり長もまうり天の墨は頼さううい
よ梅らあうく也ううははあ水も甲里史とうう
やんとて書の下葉打もひあふまうりあ月め
く加とらう大と吹付うまむ友山の志けみぐ下
小巻とねとりのりけ小くううはは遠た
あ運つよきれとすや款今朝ハ奇来らす款取小
あけあんとしきう時抄軍極念と打立せ終へん

仁本細川高上様乞小とびの共とて初合
之指十八万騎竹下へ付給へんたふ以並義六万
余騎してしこ孫乃休へ着給ふ去程小助のま度十
二日夜刻し東防共併置の初めとて行
下へハ甲勢心親王へ心お雲宮十六人別御軍
お行願登座下大務義助細登大馬助院心律師大
友左を均監作の本多んや此判友高貞とおと人
之以上之指七子余騎擲子中く向り建たりとこ
孫らへハ又新田義貞宗院の一騎二十余人子義
守初太夫お子代お菊池肥後守成重お淵黨と

始とて咽く山火名三十余人初合を勝七万余
騎大にゆくぞ向り建きり同日午刻し軍初まり
あつた大に擲子款以方平小町法地行く山川法
明く少け天地とてしりしおめさうけひてさめ
うめふも箱小菊池肥後守成重お根軍以と入け
あつた三子余騎法遠の奉へまうりあけ坂中よ
とてとつさるるべて一息休きてあつたうり是
とて子義守初太河越高坂あひあつた月因此大
美月一輪く照とぬくえいや夢と初てせめ
上くおめさうけひく然つり中めさる乃謀助

道赤ね鏡前^{テシ}も貞村^{ナシ}露^リより一冊小をきりて款比
るのうそやう疑^シのそん東家^ト比へん免ゆかむ矣
うふまよを夫ふ封そ只ねさつまでうまてうそ
百番^シあくらむととるべらるる家^ト生^シまてうり
ふい名をうそたしめ命をばおしまね物とりふ
あそりしくうまあとりうひてはあそむ種を
見給へとて一同り一時とらむわけあそきて
おそりうりけき書^シハ款とひさしうけてふ
まよよひ入るる勝るまきりうそ一あそ人も
こらふつま一戦あそび及て守あそびぢらと打て

ぞりありきん乞減見せお後依く本一冊ふり
まて言^{コト}あそぬね人こりまきりうそ一あそ人も
しめて遊^シ立くせあまり間とくまきり門兵六百
番^シあそびハりけとるま或ハうれあそりまきか小
あそり多り自合の合戦と忘ちうて書^シまてうひ
て思^フくけき仁本細川^ト高上^トあそり人くりさ見
すまみて甲^シ書^シ王の山^ト原へ合^シ戦^シもあそび打てあそ
うまけけとくまよひうそあそりあそりあそりあ
かうりけの成^シ甲^シ書^シ王の別^シ砲^シ車^シ服^シ屋^シ右^シ清^シの作^シ云
うひあそりあそりあそりあそりあそりあそりあ

方の力とうるふいとさねるまらうとさうてし
町まうとて七子余路一はふあしては比次と
為新小修多福く難乃足成給撥下すめく横合
小志門くくたのしられまう播下りこりあふ款
さまはうしうもがえひかじつさ十文字ふわふ
てハ文字よ中ふる大甲黒と二川引あくと二れ難
法入りへく東あするひき苗ふわわれ可率
小面とすしめ一舉小免とたのしとひをく滋小
あ亦名とまらまらう共たなまは推りんひり
ものがるおさなひよ対川うさ道成言はひ川め

とひいす血とらんくくして河川の流あう
如く也忘うい流はあ地ハあいくくして屠
雨の肉の如く也じさんとりふえとるそらるり
言小服屋右邊門板の子息武部大吏とて今年十
三小成まらう款川方引わられらう町りくあく
浦をれうりきん岸ホ三路あひた上款代甲まら
流りきんび人ううちなれたんもやさ人由く益
あらしと引切くるけ控くくさういしう不と播
うけて款小忍あうれしとさうくね神までぞお
とうけり又義助乞とけあう義治の忍くねハ

161-62(4)

うらまわらうか又りけとまわらうかの二の圓と
うらまわしぬ死カハシ生ニカラ成ニみとい所シ時乃命りきて之何
うらまわしぬコラチ勇士コラシの戦場シキヤウは命とまわらうか
子孫シの故業コラチと思ふ故也まわらうか
あるまは所時シの別ビ死シの事にては戦場シもと之
まひつう也コラチ死シ生ニとまわらうか
とてコラチ襪ソクの袖ソデ小コ海ウミにけ大オホ指サシの中へけ入イ給ヒ
きんが誠マコトは父の子と思ふ今イマまわらうか
事コトあるまは所時シの事コトなりきや
仕らんとして義助ヨシタケの共トモたらんトモとまわらうか
三百余

騎カケ主ヌシとうトウいイせセたタけケ入イらラ義助ヨシタケの二ニ方カタは
小コうウ一イチ之ノ大オホ勝カチ戦セ術ジュツをマてテ一イチ方カタは
よりけりヨリ毛モウ上ジョウ煙エンとト義助ヨシタケはシくクるルをヒく
すスまマれレあアるル小コ武ブ士シ大オホ丈サダ義助ヨシタケがガ父チチとト見ミ識シ
てテるルとト川カハをワくク直ナ後ゴはシ騎カケ主ヌシとト見ミ識シ
らんランとト見ミ識シすスめメらラれレあアるル故コ推シしシ所シはシ所シ
川カハのノ邊ヘにニあアるル共トモ二ニ騎カケ主ヌシがガ方カタは
とト分ワけてケやヤうウくクもモ思オモひヒすス女メ子コはシひヒりリ所シ
尸シてテ死シぬヌしシひヒとトてテはハ建タてテ乞ヒをヒくクりリ武ブ士シ大オホ
史シ義助ヨシタケのノ義助ヨシタケのノ指サシはシ中ナカへヘはハ入イ給ヒ

為業^{ワカシ}目見^メりせり^シまけ^ケた義治^{ヨシタカ}の命^{イナ}後^{ノチ}よせ
合^{アヒ}て所^{トコロ}ふもそ^ノせし^シ所^{トコロ}二^ニ勝^{カチ}つ共^ニ切^キり首^ヲ
とぬ^キも^トう^ノわけ^ヲう^ノ親^{オヤ}助^ノあ^ハま^シ成^ニ見^ミ給^タひ^ニ死^シ
あ^ハる^ノ人^ノも^モせい^シあ^ハら^るや^ハふ^ふあ^ハる^ノ下^ノひ^ヒて^シ一^ニ
う^ノい^ハの^ノり^ハさ^ミみ^トな^リ一^ニあ^ハら^ると^モあ^ハら^るて^シ又^ニ
し^テの^ノ階^ノへ^ニぞ^リぬ^レき^つ一^ニ陣^ノの^ノり^ハふ^ふ
う^ノひ^ハら^らび^きあ^ハる^ノ意^ノを^シ入^レ人^ノ死^シつ^トか^シ三^ニ
め^ンこ^ーき^んあ^ハら^る六^ニも^トあ^ハら^るを^シ相^シ助^ノ作^ノ本^ノあ^ハん
や^ノ判^ノ安^ノの^ノふ^ノ余^ノあ^ハら^るう^ノう^ノう^ノう^ノひ^ハら^らう^ノう^ノ
り^ハと^モあ^ハら^るん^ニ一^ニ矢^ノ射^テて^シ殺^シと^モあ^ハら^るる^ノ軍^ノあ^ハら^るせ

加^カり^リり^リ知^チり^テ官^ノ軍^ノを^シあ^ハら^る小^ノ村^ノ中^ノ書^ノ主^ノの^ノ地^ノ勝^ハ
初^{ハジ}め^ノの^ノ合^ノ戦^ノ小^ノを^シこ^ノう^ノく^ノう^ノて^シ又^ニ色^ノ戦^ノり^ハ大^ニ
勝^ツつ^ト依^ノの^ノ共^ノハ^ハあ^ハら^るの^ノ熱^ノ合^ノ小^ノあ^ハら^るつ^トま^シて^シ無^ク
也^ハも^トそ^ノあ^ハら^ると^モ一^ニ軍^ノを^シあ^ハら^るる^ノ者^ノと^モあ^ハら^るれ^ル
所^ノう^ノ大^ニあ^ハら^るん^ニや^ハい^ハ息^ノよ^ハひ^ハか^ラう^ノり^テ親^ノ王^ノよ^ハ向^カ
ま^シて^シら^ると^モひ^ハき^ハ右^ノ勝^ノ門^ノ依^ノふ^ノけ^レ合^テて^シう^ノう^ノひ^ハあ^ハら^る
あ^ハら^るの^ノそ^ノう^ノこ^ノら^らふ^ノあ^ハら^る款^ノの^ノう^ノう^ノあ^ハら^ると^モあ^ハら^る
わ^ケら^レた^ト大^ニあ^ハら^るの^ノ勝^ハら^るり^ハあ^ハり^んと^モて^シ依^ノ野^ノ川^ノ系^ノ
へ^ニあ^ハら^るり^ハそ^ノく^ノ仁^ノ木^ノ河^ノ川^ノ今^ノ川^ノ慈^ノ川^ノ上^ノ款^ノあ^ハら^るお
控^ノの^ノ共^ノた^ノ三^ニ百^ノ余^ノあ^ハら^ると^モあ^ハら^る遊^ノけ^レあ^ハり^ハ是^ノあ^ハら^る申^ノ言^ノ

王のこころは此後下と頼田反よりきり二条中
なるをうりまはしひをいへば湯の原の兵を
く三百騎亦くめく討死すをいへり人里み
引之ぬり安軍を我と小く落しけり種々作野川
原ゆえたまり之兵倭兵の府りもさう人寸
搦手乃家子三百余騎を海道坂西へ落しゆく

宣軍勢報と引ありそく

遠子頼根流乃合戦る安軍うめふしり小利と故
あはれまはしひ入てさう人うり野原を以て遊
歩して編倉へ入らん正ら事うかめり此肉

上ありと家子留りさくすみこめふ試とをし
と約する安小搦手より軍中ふきて家子留とひ
らうられねとぞくまはし法圓乃りふかし湯流
次乃軍よ落人よかよりつら坂東物まぐ試とを
試とをいめて我と小く落しをり圓さくを廣さ
るを山小く記まをさく野原さうり所り附
人ありたしらす安小より執事舟田入道ハ一
せめはさ款とせめく居りけりか款凍し竹下
乃合戦ハ安軍打し世法ひく款と留遊ちりし
ていせとさわるの事くのさかすをて試

ふんるゆめしく町まじき幸一もていとそ尸
きりて成字と粟^{イウ}と藤^シと打あへてはけつ
があふとふんるりはどのびあしり此方の勝と
お思てのち建兵たや一勝南子の成者と成は人
ごどぞりもさ款八十百勝より方又百金勝よりさ
直乃あひ手也りてくけ成りて乃ひさき
てまぢんけけけやへことりさめく殺^ス可勝打集^リ
うう款の中へけけて入府中ゆく一乘出う三子
余勝もてうのひきくの新田なる勝のきとて
ふさ款と思ひまうまやとせさうへてくまんと

五きうと藤隊中^{ウツ}小隊^{コウ}で打うるた力とら手乃純
うけとあたの成共とうひつとてら^{ツエ}投^ナ二^キ文^シ
ぞるけうりけう一乘之た力のをわつと隊をれ
とるけられとまじう成とあくよふ是成あま
る成とて殺^ス員^イもも里^リか^カら^ラび^ビと^トき^キうと
藤隊るうり死^シてありあひご合てううさ海ふけ
と成寸と成あけけひと一乗とあうも立
と粟^イとあう人て首^ウとさ^サわ^ワく^クを^をう^うわ^わけ^けけ^け一
乗^イの^ノ高^{タカ}木^キ目^メつ^つあ^あめ^めと^とま^まと^とひ^ひの^のせ^せと^とん^んう^うと^とま^ま
一^一田^田け^けま^まけ^けま^まの^のけ^けう^うと^とん^んと^とる^るより^{より}飛^飛あり

く打て加へまは薩塚のひらぐてはけたをト
くあぐさ首とぬきをさめと一ふめく九人
色一と討つりけき色とをて款殺下百騎あり
とてもあてしけ合せんたせりきなり義貞
三月くと伊豆の府と打て通り落ふし雷より
落てまゝと浦ざれ石あり薩軍を合しこより
うせ付言の種と義貞の種二子孫計小坂よきり
び坊ゆといふとひ百妻子妻小坂終ふりたると
が熱座ぶりく通らゆつと月と兵と約あり本
瀬川と種一流打立く坊の種二子孫計思くより

をこと打あて種父文と思まは二川とも思と種
ゆえ並ありゆえ言ありさては小山判費ゆく
そとらん一騎とあまさ守討とれとて山名思思
の人こるのさふ張ありておめきてよりり
種と小山と坊は角八ありけちとされて百騎
計はうとささよりゆくさうき鶴の原とあり
まは松原の陰より三旗よりと種は種と百騎
計ひ人きりもあ款のゆありと並家は思小とひ
種人たもあ眼目の竹下より一文法遊よりとせ
て本よりと合戦しひし甲斐の源氏とてゆとを

あつて人々を分けていりて欲せぬ勢てうてとて
二子余路の勝地二ふふとけて水筒よりとて
また町りりとも思ひきん十矢とて討す志を
人よ感ふそおつりけり山勝とてよういせく遠
よゆけじ甲斐のともは成は付てありくき活らり
宿業たりなたしあこいり世付て七子余路よ
さりふたり今いりそつさみて今井とては行を
るふふ又いりみ流^{たせ}指^せあけて小山のふ小款二子
勝地ひえり勝人なりおつり所人甲斐源氏よ
け款を誰そと同路へし志を成回小笠原乃志た

ゆくは也こころふらうばせめよとて四方より
せめ上をうと高^{ナツ}山^{ナツ}勝^{ナツ}地^{ナツ}とあまふす
ううんとせははめとそとくわらふも一六款
とけひりりてせびあよと利いりくく一町さ
むゆ^エ島^ラ舟^ラ田^ラをふとて来一方とけあけて三方
よりせめ上をまたひ款をそあめ討^ス控^テて来
さうてそ勝地すもよりほるあんとさう人さう
款もかうりきんてあひ成おつりけりる勝
と勝地建く十二月十日の書程小笠原川以东
乃宿し付勝ひよきりお高川上よあ少りて河の

あはれ成ひしにせり去速よつりまゝの人馬なまは
酒と奉りつるふりして俄に並敵成りかちて
うき搦とも酒をれきりて時り一均軍の大勝な
り遊りけりし一あり三あり未勝ハ一人も
まゝかろふハ一あり一と若島上校の人これ長
せんきよ三日の遠るまけまは川のみり此搦
まゝく後しとゆきて扱万勝の軍勝跡不まゝく一日
が甲小後てり法卒と時治しとてく後船回入
るに大物我負約片と二人搦と一團よりけりま
切くぞ搦よりきり令へると引てまゝりきりま
が

るとたふ所うさ海よ落入てうさねま川みね流
きりと船回入る推りありありの所引あけし
中町まはばは酒言の粟生イイラ遠ヨコ糧さるま川中
へ飛降り二町計とよま付くるに令人と後在
右のよ小搦あけてし一城とてきりありのそこと
ま川の上ありて向の岸へも付たりきりまは
乃落入ける時搦二町計ありて後か屯さやうと
なりりきりと船回入るに大物と二人よ小ま
おろしてゆりまは飛渡りしを治小のきり兵二
十余人とひめひとてきりしとていふまきりし併

駿國の侍人よ名流八帝とて名譽の大カレあり
々つがいで海をくくせんとして獲成志の上巻
沃ぬき申ふひ川さけ二十人色しとるけ誠切と
と二人残りとまけりと左右比りさしよりく
ととさうとて一丈のまじ落くろ橋をゆりしと飛
て向う橋をささしけりよ少と雨が之ゆりつ
す減りりろを小川にまねし法軍勝遠よもと見
てあなりのめしゆ月建も危丈のまじよあしす
大ねとりひひとれ者とりひひ月建と控るしとを
是く縁た肘の運よひつまでひ軍小打まけ結ひ

わらうといてうよといやわへしとましりけきそ
ぼうき橋と切つし流されうまは款多しひ寄
累子た右右まく海と人き橋とましりきんし列
立あふ橋のましひをまはたぬと同ふよ燃く今
一軍ぞんと思ふ者なましりけりよわ矢と紀よ一
目隠ぬし結ひきりて那自色二万金葉らけり勝
十方へ落うせて十方の一とをましりけりよ且よ
字初ま治尸大橋大ねのあふ幕く尸ふれきりハ
今無官葉た報もさしり勝結ひきりよと取けけ小
も附こましり小瀬とゆりまよ人ありた見しひ

城余人を場よをひて討死仕畢一附所ありき
ゝ為よ中よりれしは高橋家坂東坂西乃共
城下より定探よ三よりくもる間を殆どそふ三子
余務小乃ふを日宇多保よをひて共結とらんし
彼方の児嶋小上てをそふ家初小せめ上らん
紅山川開んをる一とを若戸つるをきりて東
初より新田越後守義隆と大將として筑城名和
楠以下じひとの大名は大將よをりては國
乃初款及ありひ教とけくしてせめ上は何所け
るよりる人きさまその後大をるよりりたり

十一日彼前園の役人児嶋之序言述べ
もやるとまくとくせりて去月廿六日南正代役人
坊之本三郎右衛門尉佐胤同園井新左衛門尉信高小
細川公康師定探よりりひとけく彼中必より打
越後山の城小よりてをるもる後園の目代先左衛
計とそて合戦と殺すよりは園中此殆どいそく
よあさよりりて無殆どありよをて引ありぞく刺約
款よりよのりし昌目代り勝殺百人討死し畢ね
そ翌日小坂川村庄より人隅山原合那須市川
以下是約款小よりせ加ふ間預りてそ殆ど三子余務

よ及びり言ふ海防國の地勢は敵人亦さひ川北
まよとせわ崩りて約款とお約番小湊山海防
海防國の守備城とて海りりて下向より同を防
と合せく同廿八日小湊山より一帯せめうめひ
し日言渡り一隊亦大子とせめ海りりてとせ小
湊山より一帯野人の國人亦息小ひ家町人里々
所方と討るる目代津智の子息七条舟房小湊
の六郎房番井六郎作井七郎以下三十余人捕り
小をひくうへは早寢業作わよとてひまけて
海防國より引去りてく三石の城よとてとるる意

意より海防國の守備松田十郎盛助大田判官より
とて津入る津原南へ下着てとて小湊
小加りる間又三夜より山中へ引こむ和氣の宿
小をひく合戦とて松田十郎盛助よとてす
間官軍扱十人うへて徳山の城小引こむ
和南國の役人内藤孫二郎の地所よとて
引こむ小湊と海防國へ引こめおひや加と間法
率意行ゆとて海防國の早言渡り一とく小湊
月小湊海防國のわかる番方と山林小くし海防
の下向とお約のまよとて早言渡り一とく小湊

如送と企ふる玉身中況が定法用器と付く高
山小とそとをらるる御小今日十二日投送法小
うんうの指とをてをうする同法法小義率小
くうー才命と標すととを一併全さ受と付す
うく作ぬ小定法我場とをひく命とおとされす
況意共大代為と圓縁と一物果乞うり送法縁極
感誠少うひてを月とて小東物とせめ上らんと
仕山急さ内勝と下さうへきとぞう言らるる
すう守如獲のとりけぬ誠お小為徳高き禮礼
家人伴ふ小河野射る入道長門よりうとうれ一

撰お藝と徳若園勝小大肉外の一類徳極と何回
弘得美三普お雲と南園伯普と波多野因幡と矢
小小懐山お入歳七道世海九別疎取るくおこる
と中へまうけ直上と初まのうとと云おひをん
の人心ひりりとしてさも代けさ寸とり事
る小を比りるはおとの共うあうりき九周縁の
陽收門のむらよ一首の担款とと書うりき
賢王の撰云うりるうよの申すはははは
う人撰とてはそう人ありあり
世夷八載たうり合て忠と若る事一原をうり

約款も其今大江山へおわが来るをすくまうは
此間め小意あぐ止の用ありうの國々の軍務た
下方へ落行する程は海中に沈りともまら箱
一石勝通ありしを思ふにあらんそれのみか
りきめお氣をたえて何れへ向へて下知せし
まされたり由を字入りきまら軍務成りし強
りきまらん為小今おの各職にをひく忠あらん
まゆり不日よ是業成しこまりうアとひひし
つゝあよと史勢不なりゆきまらりもをすてそ
る言の奥小例の落言をそあうりきる

申くうりううさせ終ふらんきんの
あせのしうくよるとなるからん
も積小正月七日よ我員内程うり返おきて軍務
乃ちしけりあり勝あへち伯耆守と本年よお雲伯耆
因糧三ヶ國の防二子勝成そんてひけらか世
の敵せしが敵二ヶ所小大木と扱子平流しうけ
て大總とよりらんが井沢おけけく所るさ
うまらいうるう河伯お津なりとも上とをよ
まのうく下とをくりうう一守治へハ捕判友
正殿よ大和河内和歌紀伊國の防み子余勝成例

てびけらる橋板は二回もひく河中小大
石城うみあげさうきぎとまけくふ里亭く赤
乃キシ石城高く屏風のしくく二切立うまむ河水中
二よりうまむ白浪うかたり落あふ事一あひの鈴
門三きうの如く也款小仏やましく津まうり
とて橋の小橋浦きの橋平水浪のあつりを一宇
之浦さす焼まうひあふ程小まうたいり小吹
うけて宇治乃平島流のふ門うくホラサウ焚香思小僧行
きんまうと濃浦一けき山橋へハ眼屋石橋の橋
渡大ゆうして洞院乃あぜら大納言モシ文親僧正六

トモ千ヨ 三
なふ代松丸宇初文ミ蘇法乃監泰若浦老名又島丸
馬チヤン門射長丸高尾遠ハひ下七子余橋の瑞と向り家
ノカラテラ 焚香より川もささてるいとねり城とありて高
やぐらうぐーやうう三百余ヶ所よりさあふり
津のうまう人あよとまうゆく三けゆれ忍くうま
た俄さううり久うり事一なまは殿乃おまのうい
ひ寸橋も浅し又あせくつさ共之東家の人信正
乃西房の字比志るとと号カラ正ら若た母かきまは
は陳の軍心もしくしうしとせんありきん
大浦中丸新圃左若藤城之義貞城惣大ゆうりえ

とくう人沿う厚薄^シ為^シ光^シ滴^シ井^シ六^シ市^シ負^シ位^シ但^シる^シ丹^シ後^シ
乃^シ母^シ之^シ引^シ合^シて六^シ子^シ余^シ務^シ二^シ乘^シ大^シ納^シ云^シ西^シ山^シ此^シ
辰^シの^シ雲^シ上^シ附^シと^シお^シく^シ也^シ一^シき^シの^シ成^シ遊^シ也^シ一^シて^シ正^シ
月^シ八^シ日^シの^シ教^シ軍^シより^シ大^シ江^シ山^シの^シ味^シよ^シと^シい^シと^シも^シう^シき^シ
き^シり^シ未^シ中^シゆ^シに^シ成^シは^シお^シく^シよ^シを^シ明^シる^シん^シ方^シへ^シ向^シつ^シ
と^シて^シ新^シ固^シの^シ一^シ族^シ三^シ十^シ余^シ人^シ必^シこ^シの^シ務^シみ^シ子^シ余^シ務^シを^シ
の^シこ^シう^シれ^シう^シり^シを^シま^シは^シ大^シ江^シ山^シの^シ款^シを^シひ^シら^シふ^シ
る^シ一^シと^シて^シ江^シ回^シ共^シア^シ大^シ橋^シ行^シ義^シ成^シ大^シ功^シと^シい^シく^シ三^シ子^シ
余^シ務^シと^シ丹^シ波^シ海^シ一^シう^シひ^シけ^シら^シふ^シは^シ母^シ正^シ月^シ八^シ日^シに^シ
曉^シり^シつ^シ川^シと^シお^シ渡^シて^シ約^シ案^シの^シ浦^シに^シれ^シ大^シ江^シ山^シへ^シ
アカツキ アナカスミ

と^シて^シ一^シ矢^シ射^シち^シづ^シつ^シ籠^シと^シを^シれ^シぬ^シき^シつ^シま^シ
て^シせ^シめ^シ上^シき^シう^シ團^シ一^シ隊^シよ^シす^シみ^シて^シ我^シを^シん^シ久^シ下^シ隊^シ
云^シ序^シう^シ令^シ弟^シみ^シ弟^シ長^シを^シり^シこ^シを^シお^シひ^シて^シう^シて^シま^シさ^シふ^シ
き^シり^シ是^シと^シて^シ後^シ附^シの^シ勝^シ一^シ戦^シも^シあ^シり^シり^シん^シあ^シく^シ
正^シて^シひ^シら^シ成^シ打^シて^シ引^シ々^シう^シ團^シを^シら^シ復^シて^シお^シと^シけ^シる^シり^シ
き^シれ^シた^シ下^シ里^シ其^シ里^シの^シ外^シを^シひ^シら^シぬ^シ共^シを^シな^シり^シ多^シり^シ
的^シま^シは^シ正^シ月^シ九^シ日^シの^シ夜^シ刺^シよ^シ拍^シ車^シ八^シ十^シ百^シ勝^シは^シせ^シい^シ
中^シく^シ大^シ海^シの^シ西^シの^シ橋^シに^シあ^シを^シし^シと^シせ^シ橋^シに^シと^シや^シ
後^シら^シま^シし^シ河^シと^シや^シま^シい^シと^シま^シし^シと^シ見^シ給^シふ^シは^シ橋^シに^シ上^シ
之^シ川^シの^シ中^シを^シ款^シの^シり^シま^シへ^シと^シび^シし^シを^シま^シは^シり^シと^シま^シへ^シ

しと田桑して時移りもぞひ人より時を直事此
時よりもや里社の志をと思ふくより共百騎并河
まゝへまゝと思ふく野村西乃搦手ゆは朝田百て
あつ丹波海乃田款たをしと昨自遊あまく一人
之跡さ寸討ぬく惟人田旗の文法見ゆ小ひひと
乃人くあ大勝ひ時へ田ひうひありとさきてゆ
治取まの野村又本岸之磨まは旗こ本心岸高総
宇治河と流あく名と後代ふわけゆき川ハ宇
治川よりえ流く志てあうまもやうく流く
後うれゆ人と發こよあさひきてまひり流く

まそと門とまらふあまお控の共在款よまのり
まといりうもまきあち川激た流さ守とりま
やうくまけりもやう川流くしてる人たよまのり
あまは旗の勝をまを搦よあまを流れしとて
二子余騎一およるとおりまんと志をり旗執事
あまお師並とせ回く乞いそを搦よらうひ流ふ
うまの足えあくわ大河の鹿はもやくして上ハ
あまのるるり流しさいさむまこさまん正らうあま
らくあまより流人あま旗こ平ちりりいといとく
て流らんまもそと下知せられをれえさーしを

まゝに足すゝ矢ぞ小をともや田きんやゝく全巻の
正家教百家とこがらけ達て面二三町るらいう
たどもくこりある或はお控乃共たお百余人
こゝ来て擋り下とらりきんが河津ようり
うらんと井よりけてさかたせをたやらす
款あるゆふく如くおとす討るいゝこちとを
まゝら加と魁角^{トカ}をきり種小流を流^{トク}らり波^{ナミ}い
しゝ乃をわい状とてさかたせをたやらす
可流^カきん^キのくこりうらり^ウの^ノ種^タ末^マを^シ次^ジ身^ミに^ニ別^ワく
二成^ニき^キれ^レし^シお^オ百^ヒ余^ノ人^ノ集^ルて^テ共^ニ皆^ニあ^リし^シお^オ分^ルま^スく

うせり^ウり^リ款^カい^イと^トあ^リき^キ思^フよ^ク
まらふ^マ西^シ方^{ホウ}を^シと^トあ^リひ^ヒて^テり^リと^トせ^シん^ンと^トさ^スり^リを^シ
ひ^ヒり^リめ^メた^タう^ウな^ナり^リ又^マび^ビ軍^クあ^リて^テ板^イと^トひ^ヒ上^ノ
さ^スう^ウ板^イと^トひ^ヒり^リ或^ハ一^ヒ人^ノさ^ス海^ノ乃^ノ板^イと^トひ^ヒり^リ
ま^スて^テ流^ク取^ル小^ノ倉^ノ倉^ノま^スの^ノ所^ノ合^ス戦^スの^ノ所^ノ守^ル流^ク擋^ル流^ク三^ノ
同^ノ引^ル取^ルと^トて^テこ^ノも^ノ計^ス流^クり^リて^テは^ハし^シと^トう^ウ小^ノ筒^ノ
井^ノ澤^ノ妙^ノ矢^ノ切^ル但^シる^ルお^ハ一^ヒ束^ノ二^ヒ束^ノの^ノ六^ノ流^クより^リ之^レ
ひ^ヒろ^ノぞ^ノ小^ノと^トし^シ重^ク流^クて^テし^シと^ト合^ス戦^ス体^ノく^クひ^ヒき^キつ^ツる^ルま^ス
い^イん^ンや^ヤ比^ヒ擋^ルる^ルひ^ヒと^トを^シ比^ヒ料^ノと^トし^シ板^イと^トま^スり^リ
て^テと^ト人^ノの^ノ海^ノり^リ板^イと^ト板^イと^トま^スり^リさ^スり^リさ^スめ^メく^クひ

てあ矢ふらぐらまの矢よけ右の橋けたよとひ
揚りめくつ矢よけ左の橋けたよとひ
中とさうと射る矢よけ矢切但るよわと縁とを
切くはとさうね矢いさうり多り射る縁の款也方
立合て見さう敵よ又山川判友が敵ふ二人と
けいよ海りくはくく射玄縁力張ゆくやぐらと
下へうりさ入り立うへ拒敵あいやくさ利
小橋の上ふりひさう登ううなまは福友よゆり
き渡てすまやゆりさ張しねとを思ひさうきり
やううの上さう射る矢よけ矢切但るよわと縁とを

如来る籠おちハ八日の霧うり 桃井修理亮五郎
三河守お保丹飯守と射とさうとて橋の下よ
ありさうかば使張見付と書文張ひうさてみま
し金先佐張守のりまけの自鶴中く義貞以下に
運流不返治乃奉一物軍家の以書言判来の圓義
共とわせんがうあま橋外ふた下者小細川心様
師定探系取ふせめ上らうと圓法次をひく氣
合とさうとえ張のうまい小畑世て絶資先探よ
おるさ由一うくるノ早ね今日とぞふあくた河
の宿よつさい也的日下日辰刻よけ山崎の所ハ

と一かゝる合戦と後より人々ゆく山由成又將軍
へ下りし物持つしとどりきつりきん統^チ家も山
州^{サウ}河^カ持^チ未^ミあ^アとよも上^ウよりきまけぬ真^マ代^{ダイ}持^チ軍^{グン}と
若^キ石^{イシ}雲^{クモ}上^ウ救^ク留^{リウ}山^{サン}の人^ノ今^{イマ}よりふそとよりあ
しひのへるるあまあしんば使^シ立^{タテ}詢^ユく後^{ノチ}のひ
川^{カハ}の程^{ハジメ}ゆえ成^{ナリ}けき川^{カハ}の津^ツ師^シ定^{テイ}保^ホ二^ニ百^{ヒャク}余^ヨ家^カ
より揚^{サシ}井^イの南^{ミナミ}の末^{スエ}へうらおる赤^{アカ}松^{マツ}佐^サ佐^サ徳^{トク}当^{トウ}のり
とけ二^ニ子^コ余^ヨ孫^ソまて川^{カハ}よそひてをしよすん統^チ家^カ
当^{トウ}うこのり川^{カハ}向^{ムカ}より統^チ家^カのりんと見て小^コ舟^{フネ}三^{サン}艘^{ボウ}
ふおあくとし酒^{サケ}量^{リヤウ}と先^{サキ}舟^{フネ}一^{イチ}所^{ショ}よりうら山^{ヤマ}岡^{カミ}東^{トウ}西^{サイ}

較^{カク}百^{ヒャク}里^リと後^{ノチ}てあ音^{オン}文^{ブン}ふよりうりうりけり月^{ツキ}を
乃^ノ舟^{フネ}よりうりまてぬんく船^{フネ}とさめあまなり
つらよなるひよほくがなりきん天^{テン}運^{ウン}の程^{ハジメ}の不^フ
思^{オモ}識^シゆよとよとよとぬくもひといと合^カせしえ
よちしひるさゆぞなきうりきん山^{ヤマ}傍^{ハタチ}に合^カ戦^{セン}と
先^{サキ}弘^{コウ}の若^{ニギ}例^{レイ}よ恒^{コト}せと赤^{アカ}松^{マツ}先^{サキ}矢^ヤ合^カ戦^{セン}と人^{ヒト}しと通^{カチ}
て定められよりきんと播^ハ戸^コの紀^キ氏^シ比^ヒ若^{ニギ}た之^ノ百^{ヒャク}
余^ヨ孫^ソわけしけして一^{イチ}畧^{リヤク}よをいあより官^{カン}軍^{グン}款^{カン}と
小^コ舟^{フネ}に見^ミて赤^{アカ}戸^コ城^{シロ}ひりきしゆらまぎ城^{シロ}引^{ヒキ}のけて
二百^{ニヒャク}余^ヨ孫^ソわけしつきて然^{シカドモ}おより小^コ舟^{フネ}一^{イチ}隻^{セツ}まり

もふ海ら守遊之りては方よあけらる二番小
坂東坂西の兵夫二子余務揚井の宿北水より山
まきひととせり城守の大相殿屋太清つ
作義助の兵弁小守致ま義徳將監禁為り紀清
兼二子余務二の本戸より同時より打撃く東西
ひくまのひ南水へ遊修や川守時計おうあふ
洲るのよせりよ著と記を傳へて山心起りき地
波うごしとく雄雄しとて史也及戦守なり時
國の大ね細川に様師定頼六万余騎赤松信濃守
のりまけ二子余務二まよまけととせあり

官軍款の大勝と見せりとも思ひきん別
ちして城守中よりいさむらあま孫孫はあま城よ
とひ所よりさうりさむのけと村れたりのま
うてたうとよつたのりさくくせめ入けん程
小堀ハ死人ふう門にて平地よさうりさ海ハさか
村とらられて開えと城中もや文如と立く忍く
々うう一盡し但馬國の佐人長九郎厚邊同意の
共三百余騎をまけと降へよ川先と見せり
後あせぢ大納言あまの所預文親僧正の手のまの
まくりひては圓島といまんしつう共ともら

もろしとてぬきて我志とて諸人におそく
城守の意業力とてうもひてあせぎのすさくは
高柳の道へ引ありそ記て大坂に務と一と威
多しとて討滅されうり友軍三子余騎赤井
とて一と務新庄山務に陳ちやあまきよきり
てを款^{クワキキヨ}官^{クワキキヨ}宿^{クワキキヨ}小^{クワキキヨ}籠^{クワキキヨ}入^{クワキキヨ}ぬと
へ新^{クワキキヨ}章^{クワキキヨ}百^{クワキキヨ}一^{クワキキヨ}章^{クワキキヨ}とて心^{クワキキヨ}中^{クワキキヨ}もく
之新^{クワキキヨ}田^{クワキキヨ}丸^{クワキキヨ}若^{クワキキヨ}湯^{クワキキヨ}城^{クワキキヨ}之^{クワキキヨ}大^{クワキキヨ}坂^{クワキキヨ}と
友^{クワキキヨ}子^{クワキキヨ}代^{クワキキヨ}松^{クワキキヨ}丸^{クワキキヨ}守^{クワキキヨ}初^{クワキキヨ}末^{クワキキヨ}治^{クワキキヨ}了^{クワキキヨ}
此^{クワキキヨ}ゆ^{クワキキヨ}と^{クワキキヨ}也^{クワキキヨ}加^{クワキキヨ}不^{クワキキヨ}義^{クワキキヨ}負^{クワキキヨ}義^{クワキキヨ}助^{クワキキヨ}
一^{クワキキヨ}子^{クワキキヨ}小^{クワキキヨ}坂^{クワキキヨ}之^{クワキキヨ}と^{クワキキヨ}比^{クワキキヨ}大

的^{クワキキヨ}非^{クワキキヨ}の^{クワキキヨ}前^{クワキキヨ}と^{クワキキヨ}引^{クワキキヨ}射^{クワキキヨ}細^{クワキキヨ}川^{クワキキヨ}に^{クワキキヨ}律^{クワキキヨ}師^{クワキキヨ}是^{クワキキヨ}禪^{クワキキヨ}六^{クワキキヨ}萬^{クワキキヨ}余^{クワキキヨ}騎^{クワキキヨ}と^{クワキキヨ}て
遊^{クワキキヨ}け^{クワキキヨ}う^{クワキキヨ}り^{クワキキヨ}新^{クワキキヨ}田^{クワキキヨ}丸^{クワキキヨ}若^{クワキキヨ}湯^{クワキキヨ}城^{クワキキヨ}に^{クワキキヨ}引^{クワキキヨ}け^{クワキキヨ}う^{クワキキヨ}り^{クワキキヨ}三
子^{クワキキヨ}余^{クワキキヨ}騎^{クワキキヨ}と^{クワキキヨ}て^{クワキキヨ}也^{クワキキヨ}一^{クワキキヨ}合^{クワキキヨ}せ^{クワキキヨ}と^{クワキキヨ}ま^{クワキキヨ}あ^{クワキキヨ}う^{クワキキヨ}過^{クワキキヨ}と^{クワキキヨ}陳^{クワキキヨ}と^{クワキキヨ}ぬ^{クワキキヨ}く^{クワキキヨ}疑^{クワキキヨ}
と^{クワキキヨ}さ^{クワキキヨ}う^{クワキキヨ}と^{クワキキヨ}と^{クワキキヨ}一^{クワキキヨ}あ^{クワキキヨ}け^{クワキキヨ}あ^{クワキキヨ}り^{クワキキヨ}け^{クワキキヨ}き^{クワキキヨ}た^{クワキキヨ}故^{クワキキヨ}に^{クワキキヨ}合^{クワキキヨ}戦^{クワキキヨ}と^{クワキキヨ}と^{クワキキヨ}あ
義^{クワキキヨ}負^{クワキキヨ}と^{クワキキヨ}け^{クワキキヨ}若^{クワキキヨ}ら^{クワキキヨ}れ^{クワキキヨ}可^{クワキキヨ}也^{クワキキヨ}山^{クワキキヨ}門^{クワキキヨ}へ^{クワキキヨ}新^{クワキキヨ}章^{クワキキヨ}と^{クワキキヨ}威^{クワキキヨ}を^{クワキキヨ}も^{クワキキヨ}ん^{クワキキヨ}る
也^{クワキキヨ}城^{クワキキヨ}守^{クワキキヨ}の^{クワキキヨ}義^{クワキキヨ}業^{クワキキヨ}力^{クワキキヨ}と^{クワキキヨ}て^{クワキキヨ}あ^{クワキキヨ}り^{クワキキヨ}と^{クワキキヨ}時^{クワキキヨ}城^{クワキキヨ}う^{クワキキヨ}り^{クワキキヨ}一^{クワキキヨ}義^{クワキキヨ}負^{クワキキヨ}
今^{クワキキヨ}也^{クワキキヨ}内^{クワキキヨ}裡^{クワキキヨ}へ^{クワキキヨ}来^{クワキキヨ}ら^{クワキキヨ}れ^{クワキキヨ}ぬ^{クワキキヨ}ん^{クワキキヨ}と^{クワキキヨ}是^{クワキキヨ}ゆ^{クワキキヨ}り^{クワキキヨ}程^{クワキキヨ}と^{クワキキヨ}隙^{クワキキヨ}之^{クワキキヨ}三
子^{クワキキヨ}余^{クワキキヨ}騎^{クワキキヨ}と^{クワキキヨ}二^{クワキキヨ}子^{クワキキヨ}と^{クワキキヨ}引^{クワキキヨ}て^{クワキキヨ}赤^{クワキキヨ}坂^{クワキキヨ}と^{クワキキヨ}と^{クワキキヨ}招^{クワキキヨ}め^{クワキキヨ}さ^{クワキキヨ}
て^{クワキキヨ}う^{クワキキヨ}け^{クワキキヨ}入^{クワキキヨ}大^{クワキキヨ}坂^{クワキキヨ}と^{クワキキヨ}と^{クワキキヨ}亂^{クワキキヨ}あ^{クワキキヨ}ひ^{クワキキヨ}大^{クワキキヨ}と^{クワキキヨ}ち^{クワキキヨ}り^{クワキキヨ}して^{クワキキヨ}ぞ
う^{クワキキヨ}あ^{クワキキヨ}り^{クワキキヨ}共^{クワキキヨ}今^{クワキキヨ}也^{クワキキヨ}也^{クワキキヨ}方^{クワキキヨ}と^{クワキキヨ}も^{クワキキヨ}て^{クワキキヨ}款^{クワキキヨ}と^{クワキキヨ}り^{クワキキヨ}わ^{クワキキヨ}り^{クワキキヨ}大

なす初まの共たのまきだ感後与感思^ニて自余^ニ此
物中^ニ目と^レけ^レとあふ^レあ^レめ^レり^レと^レふ^レと^レ合
て^レお^レと^レめ^レんと^レあ^レき^レつ^レと^レ養^レ致^レう^レち^レや^レふ^レり^レと^レさ
り^レと^レ見^レと^レお^レあ^レえ^レや^レし^レく^レい^レと^レひ^レち^レり^レぞ^レけ^レ七^レ八^レを
區^ニ自^ニう^レめ^レひ^レき^レら^レし^レ糧^ニ乃^レ神^ニと^レふ^レその^レ三^レあ^レる^レを^レ皆
切^レお^レく^レさ^レれて^レ休^レま^レあ^レま^レい^レと^レけ^レま^レき^レを^レい^レて^レ皆^ニ死^ニせ
せ^レ小^レさ^レり^レあ^レさ^レれ^レを^レ月^ニ分^ニ小^レ致^レへ^レゆ^レり^レ終^レふ
自^ニ上^ニ教^ニお^レち^レ乃^レ是^レ付^ニ勅^ニ使^ニ川^ニ原^ニ自^ニ害^ニの^レ事^ニ
山^ニ傍^ニ大^ニ海^ニ乃^レ神^ニ座^ニお^レま^レわ^レと^レす^レく^レき^レり^レて^レ東^ニ甲^ニに^レき
後^ニ上^ニ下^ニ織^ニ小^ニ如^ニ来^ニう^レり^レ幸^ニ乃^レ指^ニお^レあ^レり^レて^レあ^レさ^レめ^レき^レ

う^レ織^ニを^レ備^ニよ^レひ^レて^レ車^ニ馬^ニ来^ニあ^レよ^レと^レせ^レち^レよ^レ松^ニ物^ニ縣^ニ登^ニ
と^レ上^ニ下^ニへ^レま^レち^レし^レう^レふ^レ義^ニ興^ニ我^ニ助^ニり^レし^レこと^レも^レせ^レ来^レら
所^ニの^レ前^ニ上^ニ止^ニ上^ニの^レ山^ニ門^ニへ^レあ^レさ^レせ^レ終^レり^レんと^レて^レ之^レ糧
乃^レ米^ニ煮^ニと^レ玉^ニ神^ニ子^ニ剛^ニく^レり^レまん^レ小^レめ^レさ^レれ^レう^レま^レき^レ成
營^ニ興^ニ丁^ニ一^レ人^ニも^レな^レり^レを^レれ^レし^レ門^ニと^レし^レこ^レめ^レて^レ山
或^ニ士^ニ在^ニ糧^ニさ^レあ^レう^レう^レち^レ立^レし^レ隙^ニく^レ所^ニ興^ニの^レお^レぼ^レと
そ^レ仕^レり^レ右^ニ田^ニ肉^ニ大^ニ於^ニ定^ニ房^ニ乙^ニ車^ニと^レけ^レせ^レく^レ来^レせ
ら^レれ^レう^レり^レき^レん^レが^レ所^ニ取^ニ中^ニを^レ走^レ回^ニく^レ足^ニ踏^ニふ^レよ^レよ^レく
を^レ傳^ニ乃^ニ人^ニく^レえ^レあ^レり^レて^レあ^レり^レ多^レり^レと^レ惹^レきて^レ物^ニ置^ニ比
目^ニ乃^ニ孔^ニ二^レ圓^ニの^レ所^ニ中^ニさ^レと^レ皆^ニ控^ニと^レう^レま^レさ^レり^レ肉^ニ刺^ニ心

諸小善侍^{シツカ}反^{アサハラヒ}よりせりて来てせられをりかひく
ましく思ふく^{シツカ}一結きんせん^{シツカ}あり物^{シツカ}る^{シツカ}連^{シツカ}のけさ
ひまの^{シツカ}川^{シツカ}ま^{シツカ}り^{シツカ}し^{シツカ}又^{シツカ}六^{シツカ}等^{シツカ}お^{シツカ}れ^{シツカ}と^{シツカ}れ^{シツカ}け^{シツカ}り
しそ^{シツカ}深^{シツカ}まり^{シツカ}け^{シツカ}き^{シツカ}る^{シツカ}上^{シツカ}人^{シツカ}三^{シツカ}日^{シツカ}人^{シツカ}し^{シツカ}そ^{シツカ}衣^{シツカ}冠^{シツカ}正^{シツカ}
しく^{シツカ}あ^{シツカ}く^{シツカ}儀^{シツカ}事^{シツカ}せ^{シツカ}れ^{シツカ}り^{シツカ}を^{シツカ}れ^{シツカ}そ^{シツカ}の^{シツカ}か^{シツカ}の^{シツカ}藩^{シツカ}府^{シツカ}の^{シツカ}
宿^{シツカ}ハ^{シツカ}皆^{シツカ}甲^{シツカ}冑^{シツカ}武^{シツカ}美^{シツカ}し^{シツカ}ら^{シツカ}矢^{シツカ}次^{シツカ}た^{シツカ}い^{シツカ}し^{シツカ}て^{シツカ}準^{シツカ}範^{シツカ}乃^{シツカ}前^{シツカ}後^{シツカ}
よ^{シツカ}お^{シツカ}り^{シツカ}し^{シツカ}び^{シツカ}び^{シツカ}二^{シツカ}三^{シツカ}年^{シツカ}乃^{シツカ}圓^{シツカ}天^{シツカ}下^{シツカ}乃^{シツカ}月^{シツカ}乃^{シツカ}一^{シツカ}と^{シツカ}う^{シツカ}ま
し^{シツカ}て^{シツカ}物^{シツカ}邊^{シツカ}小^{シツカ}が^{シツカ}り^{シツカ}し^{シツカ}月^{シツカ}心^{シツカ}雲^{シツカ}霧^{シツカ}う^{シツカ}あ^{シツカ}り^{シツカ}事^{シツカ}一^{シツカ}を
有^{シツカ}き^{シツカ}小^{シツカ}武^{シツカ}を^{シツカ}と^{シツカ}う^{シツカ}あ^{シツカ}ら^{シツカ}る^{シツカ}と^{シツカ}ら^{シツカ}の^{シツカ}見^{シツカ}て^{シツカ}物^{シツカ}儀^{シツカ}道^{シツカ}
よ^{シツカ}は^{シツカ}ひ^{シツカ}礼^{シツカ}儀^{シツカ}の^{シツカ}り^{シツカ}こ^{シツカ}そ^{シツカ}ひ^{シツカ}き^{シツカ}し^{シツカ}も^{シツカ}も^{シツカ}や^{シツカ}り^{シツカ}ら^{シツカ}う^{シツカ}一^{シツカ}を

聖家^{シツカ}か^{シツカ}へ^{シツカ}き^{シツカ}前^{シツカ}表^{シツカ}なり^{シツカ}と^{シツカ}今^{シツカ}し^{シツカ}と^{シツカ}思^{シツカ}あ^{シツカ}り^{シツカ}ま^{シツカ}り^{シツカ}ま^{シツカ}り^{シツカ}
田^{シツカ}左^{シツカ}兵^{シツカ}衛^{シツカ}の^{シツカ}こ^{シツカ}眼^{シツカ}左^{シツカ}兵^{シツカ}衛^{シツカ}の^{シツカ}依^{シツカ}并^{シツカ}し^{シツカ}田^{シツカ}大^{シツカ}館^{シツカ}城^{シツカ}口^{シツカ}
里^{シツカ}見^{シツカ}大^{シツカ}井^{シツカ}田^{シツカ}の^{シツカ}守^{シツカ}勢^{シツカ}得^{シツカ}以^{シツカ}下^{シツカ}乃^{シツカ}一^{シツカ}族^{シツカ}二^{シツカ}十^{シツカ}余^{シツカ}人^{シツカ}子^{シツカ}衆^{シツカ}
女^{シツカ}守^{シツカ}勢^{シツカ}文^{シツカ}美^{シツカ}深^{シツカ}池^{シツカ}照^{シツカ}仁^{シツカ}科^{シツカ}あ^{シツカ}り^{シツカ}り^{シツカ}菊^{シツカ}池^{シツカ}以^{シツカ}下^{シツカ}代^{シツカ}か
極^{シツカ}乃^{シツカ}大^{シツカ}名^{シツカ}八^{シツカ}十^{シツカ}余^{シツカ}人^{シツカ}を^{シツカ}降^{シツカ}乃^{シツカ}川^{シツカ}の^{シツカ}二^{シツカ}十^{シツカ}余^{シツカ}騎^{シツカ}不^{シツカ}り
ま^{シツカ}ん^{シツカ}の^{シツカ}物^{シツカ}と^{シツカ}あ^{シツカ}り^{シツカ}て^{シツカ}あ^{シツカ}く^{シツカ}皆^{シツカ}東^{シツカ}坂^{シツカ}中^{シツカ}へ^{シツカ}と^{シツカ}る^{シツカ}と^{シツカ}も^{シツカ}や
び^{シツカ}る^{シツカ}乃^{シツカ}乃^{シツカ}さ^{シツカ}え^{シツカ}り^{シツカ}り^{シツカ}し^{シツカ}有^{シツカ}極^{シツカ}武^{シツカ}山^{シツカ}乃^{シツカ}と^{シツカ}り
今^{シツカ}乃^{シツカ}の^{シツカ}軍^{シツカ}小^{シツカ}道^{シツカ}軍^{シツカ}忽^{シツカ}し^{シツカ}打^{シツカ}ま^{シツカ}け^{シツカ}て^{シツカ}玄^{シツカ}宗^{シツカ}宣^{シツカ}帝^{シツカ}自^{シツカ}蜀^{シツカ}代^{シツカ}
關^{シツカ}へ^{シツカ}落^{シツカ}し^{シツカ}世^{シツカ}治^{シツカ}ひ^{シツカ}し^{シツカ}は^{シツカ}六^{シツカ}軍^{シツカ}準^{シツカ}祀^{シツカ}不^{シツカ}得^{シツカ}て^{シツカ}劍^{シツカ}閣^{シツカ}乃^{シツカ}國^{シツカ}
よ^{シツカ}ま^{シツカ}よ^{シツカ}ひ^{シツカ}し^{シツカ}小^{シツカ}あ^{シツカ}と^{シツカ}る^{シツカ}と^{シツカ}も^{シツカ}小^{シツカ}佐^{シツカ}法^{シツカ}國^{シツカ}代^{シツカ}任^{シツカ}人^{シツカ}よ

勅使河東丹之序を大酒の事は向ひしりけりが
宇佐之山勝之中よまき之直上とや山内地方
東と云てあて世治ひねは折霧を行まじや
うさ紙見て命と殺す片の殺也我あんれり不
とせりてつたの片とすく不義に送後小あ
らんやとりひて三束河原より又子三誘引むて
鳥羽の地通死賊門代造めく賊形さ切之死々り
去年海乃事一付内程上しる
那和伯耆当去年鳥勝多とりうめて居たりき
山内乃海原よまて直上とや東坂中へあてせ

治ひねとすきせりて毛より並小坂中へもせ
らん正ら事一いせきせりて今一方内程へもせ
素らですくおおらゆらんせらりあ校那あ
あしとて之防三百余騎より十日の當程小又東
初へそ海きん今日とあ目とて均軍未初へあ入
治ハ所りけさ夜内國西國に兵を折あ騎打入て
東白河小みりくをれん不け舟比監あり
と見てあし小よけりこは度とあともめん
しきれた去年熟らりしてハ通り打原よまて
四ら見張あ十七あて我ありよ三百余騎比防次

身くふうれて百務計小歳より作りはき花を
年ほぬふうりまきまは内程の並石の道中へ入る
より作りをまねき南庭はひびきまはく自よ東
板中へ修葺せしむ割乃るゆへにまはく口蓋より
てまはく小寂莫あり然まはくや甲乙人尺乳れ
入きりとまきて百名礼義を調し忘らんてんの
上中は賢者の志うし引やふられく雲臺の登場
ううりこよみされうり恒人志んさう恒りさ
里しうりまてんのおまはひまの口蓋まより
たいててうきんめうんてうひまうくめまきり

去年はくくくとまきまてうりまのさめあまひ
すんゆえあまれ乃文や海所りまん激とあま
あまてて燈の袖とまねしきんあまうとやま
らひて居たりまうり款の財の考まらうくやま
ままは陽的門乃前よりるよ打棄て水白川流東
へ東坂中へままけりまはくま西園乃共は海甲
ま乳入る新葺修葺の人々此家の屋形はま火と
りけりまはく折若て風まげりく吹あてりうく
竹苑唯存乃水式甲心親王と乳む井あまはく
遊乃る場乃水本橋同時ま立のかりと甲の不

方より入りくさきて猶大内親王^{ダイリ}と称ておありたま
法皇八首^{ハツシ}三十六番十二の門たひのりき人^{ヒト}
一肘の懸懸^{ケンケン}と成りたり誠王^{マコトノミチ}と号るがして
こそあふ一肘のきりとりなり項羽^{カウウ}と号るは
けくろんやうきり三月の末と盛^{サカシ}とせし呉越^{コエツ}秦^{シン}
楚^ソの古もはれよとてしと濃^{ノリ}穰^{シヤウ}のりし世間也
均軍^{ジュン}入海^{ニウカイ}の事一符^フ親光^{チカヒ}討死^{トウシ}の事
のまは正月十一日舟軍八丁百騎あくと初へ入給
つひとち合戦^{カウケン}のあはしくあくと入海^{ニウカイ}せ給^{タマハ}つ給^{タマハ}
友の四方の流^{リウ}文^{モン}この所中一人^{ヒト}所住^{ショジュ}つげ給

て天下の改^{カイ}乃^ノとけ^{トケ}の事^{コト}ありとらひ^ヒとらひ^ヒと
儀^ギ定^{テイ}せしき^キなりけり^{ケリ}が持^チの院^{ノイン}乃^ノは宣^{ノノ}ちよ^{チヨ}と
ちよらん一へえ^{ヒト}跡^{トコロ}らせ給^{タマハ}つ給^{タマハ}山^{ヤマ}門^{カド}へ^ニ入^ニ幸^{キヨク}成^ニ
ありきつ^{キツ}の同^{ドウ}均^{ジュン}軍^{ジュン}自^ミ可^カ換^{カン}乃^ノ改^{カイ}とし給^{タマハ}らん^{ラン}とら^ラえ
の^ノあ^アふ^フま^マし^シと^ト下^カの^ノり^リの^ノり^リと^トま^マへ^ヘと^ト業^ノし^シ給^{タマハ}て
そ^ソの^ノあ^アふ^フま^マし^シの^ノ法^{ホウ}殿^{テン}大^{ダイ}因^{イン}判^{パン}費^ヒ親^{シン}光^{コウ}と^トは^ハ君^ノよ^ヨ二^ニ人^ニ
有^アり^リと^トも^モと^ト深^シく^クよ^ヨの^ノま^マれ^レま^マの^ノり^リと^トま^マへ^ヘと^ト業^ノし^シ給^{タマハ}て
こ^コの^ノ事^{コト}あり^リと^ト人^ノあ^アら^ラま^マさ^サつ^ツぬ^ヌく^ク也^ナと^トも^モい^イひ^ヒ給^{タマハ}て
ま^マん^ンと^ト修^{シュ}習^{シツ}せ^セん^ンと^トあ^アら^ラが^ガび^ビ世^セ中^{チュウ}と^トして^シ今^{イマ}ハ
ま^マろ^ロく^クし^シと^ト思^{オモ}ひ^ヒを^ヲま^マた^タり^リふ^フ之^ノを^ヲま^マろ^ロく^ク均^{ジュン}軍

十七歳と申すにぬらぬのまはるすはとうらんと
正法テウホウ熾り帝木をええまるとたし討死せんと思
切らるる者たすまはる申さうのひては原小のせん
とて引らしてゐるしあづりく一足えひらき一
雨まで十世人をうられはきり歌え四方を毛と
やとあいら共と町乃圓よりうひつり受れうと
てさよと申すまね人しとたりをれへぬ
坂中オカノナカの官者クワンシャ并ナヒの形言カタコト乃事ノコトの事ノコトの事ノコトの事ノコト
正上テイジョウとそ小東坂コトウザカ中ナカに陰華インカ成ナリく大まの板イタ敷シ雨アメと
雨をわき返りしうと来る大衆一人とるしうとる

病院ト乃心之響しわらりやチリの敷道シキミチをあらたまふれ
きり敷シキ小敷コシキ中ナカ房フウあひきん僧ソウ政セイ弟テイとしかうら云
えさくシ海流カイリウして大衆のよ小長コナガとをいけの直
上ウヘ忍ニ乃肉ニクより敷シキ流リウありて名字ナナジと為ナリ為ナリ始ハジらり
さしてそ後ノチ現ゲンやあつと終ハジられけまはる名ナのきん恵
まのし城シロめしあてはあしうとく自コト志シ心シンひ川
城シロ深フカられて水ミヅ新シン書ショとあをまふれ毛モウと大ダイ文ブン乃ノ津ツ
あまころめしと申かせ下シタふれきりし急イキいきんカシコニア長
て左サ方カタ指サシ直チキ親シン流リウりて毛モウと申マシうめまらあん
らくして東ヒガシ宗ソウ流リウ中ナカ定テイ宗ソウ同ドウ省シヨウふ百ヒャク余ヨ人ニンめし皇

